

「奉仕」という言葉を一般的な辞書で調べてみると、このように書かれていました。

「報酬を求めず、また他の見返りを要求することもなく、無私の労働をおこなうこと」

教会には、様々な奉仕があります。礼拝の中ではサーバー、聖書朗読、オルター(聖卓準備)、アッシャー(受付)など。礼拝堂などの掃除も、奉仕になるでしょう。

また教会の外に向けておこなう社会奉仕活動もあります。災害が起こったときの支援や、貧しい人、弱くされた人たちへの活動。子ども食堂などの居場所づくりもその一つだと思います。

この奉仕の概念は、キリスト教を含む宗教によって広まってきました。キリスト教神学用語辞典は、「奉仕」についてこのように説明しています。

「聖霊の力を通して教会と個人によってなされる、イエス・キリストの名における神への奉仕のこと」

つまり教会の奉仕は、イエス様の名によっておこなわれることが大事なのです。自分の名誉や満足のためにおこなわれるものではありません。そしてそこには、何の見返りも求めるべきではないのです。

教会に通うと、様々なことを頼まれることがあります。「〇〇手伝って!」とか、「今度〇〇して!」とか。なかなか断りづらい方も多いと思います。しかしそれらの行為がイエス様の名によってなされ、何の見返りも求めていないものであれば、出来る範囲でご奉仕ください。神さまもそれを望んでおられます。

次回は「冒涇」です。お楽しみに。



「聖ヴェロニカ」

ハンス・メモリンク

(1430・40頃 - 1494年)

奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

(ローマの信徒への手紙 12章 7～8節)

